

都中英研だより

第 68 号

東京都中学校英語教育研究会
会 長 重 松 靖
(国分寺市立第二中学校長)

今年度上半期 中英研各部主催研修会

研究部報告

夏の語い指導ワークショップ(職名略)

第 1 回：8 月 1 日(金)世田谷区立三宿中学校 参加者数 54 人

1. 伊地知義信(豊島区立池袋中学校)「語いサイズを広げる帯学習の工夫の一例：Dictionary Quiz, Explanation game など」
2. 福田真希子(葛飾区立水元中学校)「語い指導としての Picture Describing の実践」
3. 上尾栄美子(江戸川区立篠崎第二中学校)「授業で生徒が学び合うー語い指導・辞書指導」

第 2 回：8 月 5 日(火)千代田区立九段中等教育学校 参加者数 83 人

1. 壽原友理子(世田谷区立三宿中学校)「中学 1 年の辞書指導・語い指導」
2. 浜内 明(文京区立第八中学校)「Oral introduction+Explanation と語い指導(Total English 2 を題材に)」
3. 石井 亨(千代田区立九段中等教育学校)「中学校 3 年 Reproduction+Paraphrasing+Describing」

第 3 回：8 月 19 日(火)品川区立荏原第六中学校 参加者数 68 人

1. 岡崎伸一(品川区立荏原第六中学校)「中 1 ギャップ解消を目指すリタラシー指導の語い指導」
2. 関口 智(江戸川区立清新第一中学校)「中学 2 年生に教科書の語いを定着させ、さらに語い力を伸ばすための工夫」
3. 北原延晃(港区立赤坂中学校)「語いサイズ平均 2900 語の学年の語い指導」

事業部報告

○TEACHERS' SUMMUR WORKSHOP

日 時：平成26年8月22日(金)

会 場：千代田区立九段中等教育学校

講 師：丹沢友里教諭(八王子市立第五中学校)

新井正秀教諭(足立区立新田中学校)

高山芳樹教授(東京学芸大学)

内 容：教師道場で学んでいること・音読指導

参加者：96名

○第30回 授業力アップ研修会

日 時：平成26年11月27日(木)

会 場：世田谷区立三宿中学校

授業者：壽原友理子教諭

講 師：北原延晃主任教諭(港区立赤坂中学校)

内 容：自分の言葉で話そうとする生徒の指導

参加者：98名

調査部報告

都中英研調査部「夏期ワークショップ」

平成26年8月21日(木)

10:00~16:30

千代田区立九段中等教育学校

九段校舎1階会議室

東京外国語大学大学院教授 根岸雅史先生

定期考査(Writing問題)をもとにしたテスト作りと

根岸教授からの助言

参加者：50名

参加者を8つのグルー

プに分け研修したが参

加者は大変熱心に研修

を進めていた。



プロジェクトチーム部報告

平成26年度 第一回プロジェクトチーム部研修会

平成26年8月6日(水)

清瀬市生涯学習センター

太田 洋先生(東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 教授)

『グローバル化に対応すべきこれからの外国語教育』~CAN-DOリストの活用~をテーマとした講演会

参加者：71名

太田先生からCAN-DOリスト活用による授業改善を中心に講演していただいた。講演後にたくさんの質問が出るなど、各学校における課題解決へつなげる充実した時間となった。

港区が推進する英語科・国際科教育

港区中学校教育研究会 英語研究部長 福井 正仁
(港区立青山中学校長)

1 港区の英語科・国際科教育の状況

港区立中学校 10 校、小学校 19 校、幼稚園 12 園は、中学校通学区域ごとの「アカデミー」を構成し、幼小中一貫教育を推進している。

全小・中学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、小学校「国際科」、中学校「英語科国際」を設置している。

小学校は、平成 19 年度から全校、第 1～6 の全学年で、週 2 時間の「国際科」の授業を実施している。「国際科」の基本方針は、以下の 3 点である。

- 世界の人々と、よりよくコミュニケーションを深めることができる人材の育成
- 異文化を尊重し、世界の人々と共生することができる人材の育成
- 我が国の伝統文化を理解し、そのよさを世界に発信することができる人材の育成

授業は、外国人講師（NT：ネイティブ・ティーチャー）が全時間配置され、学級担任と役割を分担し、英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培っている。港区国際科テキスト「ENGLISH for the World 1～6」及び文部科学省「Hi, friends 1、2」等を活用し、指導内容に応じたワークシートを作成して指導を行っている。

中学校は、通常の週 4 時間の英語科に加え、週 1 時間の「英語科国際」の授業を実施し、小学校での学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた「聞くこと及び話すことなどの実践的コミュニケーション活動」に重点をおいて指導している。内容は以下の 3 点である。

- 英語科の授業の一環としての発展的・応用的なコミュニケーション活動
- 生徒の創造的活動
- 国際交流や国際理解に焦点を当てた活動

評価は、生徒の自発性・積極的活動を重視して行う。また、教科書に加え、港区ゆかりの人物を紹介する読み物等で構成される「ENGLISH for the World 7」も活用する。

2 港区中学校教育研究会 英語研究部会の活動

平成 26 年度研究主題「実践的コミュニケーション能力を高める指導の工夫－小中の接続を踏まえて－」を掲げ、小学校国際科と中学校英語科・英語科国際の指導の一貫性を図るため、小学校国際科研究部会と合同で授業研究等を実施し、日常の授業を通して実践・研究を進めている。

港区は、総人口約 24 万人の約 8% が外国人で、また 80 を超える世界各国の大使館があるなど、生徒が英語を学ぶ必然を実感できる恵まれた環境にある。各校では、地元の外国人をコミュニティー・ティーチャーとして招き、生徒が授業や部活動で外国の文化やスポーツ、言語などを学んでいる。また、大使館を訪問したり、インターナショナル・スクールの生徒と交流したりといった地域に根ざした教育活動を積極的に展開し、実践的なコミュニケーションの機会を数多く設けることにより、生徒の英語学習への意欲を高め、学力向上に大きな成果を上げている。

このような各校の実践の成果を英語研究部会で交換し、学び合っている。区立中学校は 10 校で、規模の大きい学校でも各学年 3 学級であり、英語科教員の数は、ほとんどの学校で 1～2 名である。全学年の授業を担当する教員も多く、小中 9 年間一貫カリキュラムの編成・実施等は、各学校が単独で実施するには困難が多い。そこで、10 校の英語科教員の実践を交流し、一体となって取組みを継続していくことが求められている。

英語研究部主催行事として「港区英語発表会」がある。毎年 11 月、中学校 10 校の代表生徒が、スピーチや英

語劇を発表し、優秀者が東京都中学校英語学芸大会に出場している。平成 25 年度は、赤坂中学校が都大会に進み、英語劇「Barefoot Gen はだしのゲン」を演じて優勝した。

3 小中一貫カリキュラム「MINATO カリキュラム」の編成・実施

港区では、平成 22 年度に初めての小中一貫教育校お台場学園が開校し、27 年度に 2 校目の白金の丘学園が開校する。また、他の中学校 8 校も、幼稚園、小学校とともに「アカデミー」を構成し、幼・小中一貫教育を推進している。小中一貫教育の軸となるのは、教科ごとの小中 9 年間一貫のカリキュラム「MINATO カリキュラム」である。

お台場学園開校前に、教員、指導主事、学識経験者等を構成員とするカリキュラム検討委員会を設置し、各教科の小中一貫カリキュラムを編成した。

小中一貫カリキュラム編成に当たっては、初めに第 1～9 学年の各月の指導事項を「年間カリキュラム計画表」にまとめた。次に、9 学年間を通した単元を設定し、指導事項を単元ごとにまとめた「単元系統配列表」を作成した。単元は、以下に示す 16 である。

あいさつ、自己紹介、電話・メール・手紙、買い物、食事、道案内・旅行、国際理解、港区のこと、日本文化、外国文化、言語、家庭生活、学校での学習や活動、地域での活動、環境、社会

お台場学園では、小学校第 5・6 学年で、国際科を含む一部教科の教科担任制を導入し、小中一貫カリキュラムによる指導を実施した。実施上の課題を踏まえて修正し、全校に汎用的な小中一貫カリキュラムとして「MINATO カリキュラム」を整備した。

4 港区の英語科・国際科教育、国際理解教育にかかわる主な事業

小・中学生海外派遣等の実施

中学校 2 年生の各校代表生徒が、夏季休業日中にオーストラリアのパースに派遣され、ホームステイをしながら現地の学校に通い、交流を深めている。また、小学校 6 年生対象にも同様のプログラムをメルボルンで実施している。

テンプル大学との連携事業として、小・中学生対象の国内留学プログラムや異文化体験授業、教員研修や大学図書館の利用等を実施している。

国際学級の設置

東町小学校に、英語能力を有する外国人児童対象の国際学級が設置され、学習指導要領に準拠した学習内容を学級担任と英語能力の高い講師とが協力して指導している。社会、算数、理科は、希望により、講師が英語を用いて指導し、技能教科は、基本的に日本語で指導している。

教員の研修の充実

小学校国際科担当教員、中学校英語科教員、NTを対象に、国際科担当者会を年 8 回開催し、授業を参観したり、指導法等について情報・意見交換をしたりして研修を深めている。

5 今後の展望

文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を踏まえた英語教育の改善を進める。港区において先駆的に実施している小学校国際科の設置等については、その成果と課題を整理し、一層の充実を図る必要がある。

小学校国際科、中学校英語科・英語科国際のカリキュラムの接続について、一層の実践・研究を進めることが求められる。その際、小学校 1 年生から 6 年生まで週 2 時間の国際科の学習をしてきた生徒を受け入れる中学校において、小学校の音声中心の活動から、中学校の 4 技能を統合的に活用する活動へ円滑に接続させる指導の一層の改善を進めることが重要である。そのため、9 年間一貫した学習到達目標の設定も進めたい。

英語教育の大きな変革期を迎えた現在、英語研究部会に期待される役割が大きい。東京都中学校英語教育研究会との密接な連携を図り、研修・研究の充実を図りながら、授業改善を進めたい。

各地区町村英語教育研究部 部長会 幹事会

8月26日(水)午後より豊島区立千登世橋中学校にて標記の会(略称「部長・幹事会」)が開かれました。

東京都中学校教育研究会では、23区、26市、5町、8村からなる東京都の各地方自治体を、基盤組織となる60地区(23区、25市プラス羽村市は瑞穂町・日の出町・奥多摩町・檜原村と合同、島しょは大島町、八丈町、とは別にした各村に所在する9島)に分けております。そして都中英研では、各地区に部長ならびに幹事の選出を依頼し、相互に連携し合っております。この部長・幹事会は、1年に1度、各地区の部長もしくは幹事が一同に介する場となっております。しかしながら、このところあまり多くのご参加をいただけていないのが現状でもあります。この会では毎年講演会も催しており、英語教育における最新状況や実際の指導に役立つ情報の紹介等も行っておりますので、今後とも各地区の部長・幹事の皆様のご支援をよろしくお願いいたしたいと存じます。

今年度の講演会は、足立区学力定着促進指導員・前北区立桐ヶ丘中学校長の永嶋 昌博先生

生をお迎えして、「ICTを活用した英語授業の改善」というタイトルで、現在、電子黒板やデジタル教科書そしてタブレット型PCの導入と、授業改善の一助として目覚ましい勢いで進展する『ICT』に関して、具体的な指導のあり方やアプリケーションの紹介に至るまできめ細かいご指導を賜り、たいへん参考になりました。

その講演会後に都中英研役員より各部の活動に関する協議と連絡があり、短時間ではありましたが有意義な会となりました。これからも、この会へのご関心を寄せていただければ幸いです。



編集後記

「都中英研だより」第68号をお送りいたします。今回は、今までに実施しました中英研各部主催の研修会の報告を中心に掲載いたしました。また、毎年東京都の東西南北をローテーションとして取り上げております地区活動は、南部から港区の取組をご紹介いたしました。なお、各地区の活動については、年度末に発行する「中英研会報」にてご紹介する予定です。東京都全域の各地区の動向を知ることができますので、こちらもご期待ください。

本誌に関するお問い合わせ先

都中英研出版部長 池田 武男(杉並区立高井戸中学校長)

TEL : 03-3302-1962 FAX : 03-3302-6873

MAIL : IKEDA-TAKEO@city.suginami.lg.jp